

令和2年度 白石高等学校学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- 1 主体的・対話的な学びを効果的に組み合わせ、「基礎知識・スキル」と「思考力・表現力」の育成を目指した授業づくりを推進する。
- 2 SDGs(持続可能な開発目標)の精神を生かしながら探究活動の質的充実を図り、生涯にわたり主体的に学び続ける人材の育成を目指す。
- 3 「自彊不息プロジェクト」「SC1プロジェクト」等を展開し、生徒の進路目標達成を支援する。
- 4 ICT(Classi等)活用を推進し、生徒の主体的な学習習慣の育成を目指す。
- 5 個別面談と学習不適應を防ぐ取組を研究・推進し、学習不適應の未然防止に努める。
- 6 学校防災マニュアルや災害発生時の対応等を見直し、学校防災・危機管理体制の再構築を推進する。
- 7 一般教養と専門教養の双方を、バランスよく兼ね備えた医療従事者の育成を目指す。【看護科】

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

| 評価分野             | 評価項目                                        | 自己評価                                                                                                                                                                                                      |                                                                                           | 学校関係者評価  |         |
|------------------|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------|---------|
|                  |                                             | 自己評価結果                                                                                                                                                                                                    | 改善の方策                                                                                     | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 学習指導             | ① 生徒の学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。      | A                                                                                                                                                                                                         | 生徒の興味関心を引き出せる魅力ある授業を心がけ、主体的・対話的で深い学びにつながるよう、授業改善に取り組んでいきたい。                               | A        | A       |
|                  | ② 所属する年次では、日々の自主的な学習習慣を確立できるような指導が行われている。   | A                                                                                                                                                                                                         | 授業や集会等で声がけしたり、家庭学習の手立てやインターネット上の動画配信を利用した学習形態等を提示し、自主学習を促していきたい。                          | A        | A       |
|                  | ③ 教育課程は、自分の進路に適した科目選択ができるようになっている。          | A                                                                                                                                                                                                         | 希望進路の実現、興味関心、生徒の特性に応じた教育課程を検討し、新学習指導要領や新大学入試に向けた教育課程を編成していく。                              | A        | A       |
| 学校関係者評価委員会における意見 |                                             | ・コンピュータ、インターネット等を工夫して教育することで、生徒の方がそれに対応出来るようになると思う。・コロナ禍におけるICTの利用については、感染防止という視点に留まらず、生徒の学力向上に最適な利用を実現するチャンスと捉えて頑張っていたきたい。                                                                               |                                                                                           |          |         |
| 生徒指導             | ① 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。 | B                                                                                                                                                                                                         | 夏季休業・冬季休業前の全校集会時に全体指導を行うとともに、定期的な教員の朝の登校指導と各年次で適宜基本的な生活習慣に関する指導を行っていく。                    | A        | A       |
|                  | ② 学校として、行事(定期戦・合唱祭・体育祭・文化祭)は活発に行われている。      | A                                                                                                                                                                                                         | 今年度同様、コロナ禍でもできる行事やその方法を考えて実施していきたい。                                                       | A        | A       |
|                  | ③ 学校として、部活動は活発に行われている。                      | A                                                                                                                                                                                                         | 感染症の状況下で十分な対策をし、白石高校のガイドラインを遵守しつつ、各部活動が工夫して活動できた。次年度も活発に行っていきたい。                          | A        | A       |
| 学校関係者評価委員会における意見 |                                             | ・コロナ禍による種々の制約の中、様々な工夫を凝らしてイベントの実施に尽力されていると感じた。                                                                                                                                                            |                                                                                           |          |         |
| 進路指導             | ① 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。          | A                                                                                                                                                                                                         | 引き続き3年間を見通した指導のシステムを構築していく。「Team SC1」一期生が卒業を迎えたので、その成果と課題について整理し、組織的に上位者指導が行える体制を作っていきたい。 | A        | A       |
|                  | ② 年次・保護者との連携を密にするよう努めている。                   | B                                                                                                                                                                                                         | 受験制度が過渡期の状態のため、各年次毎取り組むべき課題が若干異なる現状を理解して行動する必要があるため、年次、保護者に説明機会を設けている。                    | A        | A       |
| 学校関係者評価委員会における意見 |                                             | ・明確な目標を掲げて考え方を明示している点が評価できる。・大学進学希望生徒への指導に際しては、大学名や難易度より学部・学科を重視して決めることを勧める。・TeamSC1を充実させるには、難関大学の受験者数を20名以上確保するように努力すべきと思う。                                                                              |                                                                                           |          |         |
| 看護               | ① 看護の基本知識や看護技術の習得できる指導が行われている。              | A                                                                                                                                                                                                         | 新型コロナウイルス感染症の影響により、臨地での実習ができない領域もあったが、学内での代替補充学習に力を入れ取り組むことができた。                          | A        | A       |
|                  | ② 看護の本質や社会的意義について考える指導が行われている。              | A                                                                                                                                                                                                         | 実際の医療現場から、看護職、他職種による職業意義や看護職の意義、社会的意義についての講話を取り入れた授業を実施できた。(オンライン講話・実習)                   | A        | A       |
|                  | ③ 各自の進路達成のための指導が行われている。                     | A                                                                                                                                                                                                         | 引き続き個々の目標達成に向けた進路指導を継続していく。                                                               | A        | A       |
| 学校関係者評価委員会における意見 |                                             | ・リモートでの授業の行い方等さらに工夫を。・コロナ禍でシミュレーション等の現場に近いイメージトレーニングに苦労されたのでは。今後病院側でもできるところでは協力したい。・アンケートでは昨年度より高評価が増えており、努力の成果が見られていると思う。・看護に対する社会的要請・期待が大きいことを自覚し、生徒自身がプライドを持って学業の臨めるような指導を期待。これは普通科の生徒にもいい影響を与えるように思う。 |                                                                                           |          |         |

3 次年度の課題と改善方策

| 次年度の課題              | 改善方策                                                                            |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| ① 「生徒の学びを止めない」ための対応 | ClassiやGsuiteの活用に加えて、webカメラによる授業記録のアーカイブ等を進め、生徒が登校できない状況に陥っても学びを保障できるシステムを構築する。 |
| ② コロナ禍における行事の工夫     | コロナ感染防止策をとりながらも十分な教育効果が得られるように実施体制を整え、生徒が主体的に活動できる場面を多く創出する。                    |
| ③ 3年間を見通した進路指導      | 「自彊不息プロジェクト」「SC1プロジェクト」の取組をさらに推進することで、生徒の主体的な進路決定を促し、自主的な学習習慣の確立を図る。            |